【学校通信】

令和3年2月4日

第30号

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西　規之

お手紙をいただきました

１月２６日（火）に開催しました新入生保護者説明会に参加された新入生の保護者あてにお手紙が届きました。手紙の送り主は、市内の幼稚園長や小中学校長を務められた和久一美先生（元家庭教育推進委員）です。例年、和久先生には新入生保護者説明会で開催している「思春期講座」でお話しをしていただいております。話の内容は主に思春期の子どもへの対応についてですが、今年は新型コロナウイルス感染予防の観点から「思春期講座」を行うことができませんでした。手紙は講演の代わりにいただいたものです。新入生の保護者を対象とした内容ですが、在校生の保護者の皆さまにも参考となる内容ですので、紹介したいと思います。

「西中生を三年間も育てられるなんてうらやましいですね。ご入学おめでとうございます。この季節、いつも中学生賛歌を語り、それを熱い心の保護者に聞いていただきましたが、今年はコロナ禍で安全を考え、直接お目にかかれませんので、こんな形で申し上げます。かつて経験したことのないような形で学校生活が始まり、友情を育てるイベントや日々の密接な繋がりも減っている中、でも思春期の心身の変化は大きく、戸惑いは大きいようです。その揺れは家庭に集まり、今まで使ったことのないような汚い言葉を使ってみたり、親にあたったりすることがあるかもしれません。そんな時、大人の階段の上がり方も難しくなったと考え、見守り、問い詰めるのではなく、じっくり聞く時間を作ってください。中学生が一番心を動かすのは共感してもらうこと、親が喜んでくれることです。大人の分からないところで、孤独感を感じていたり、違和感を感じていることがあるのが思春期の中学生です。ＡＩやスマホの扱いも中学生には難問です。保護者間でも学校との連携でも、西中の地域も保護者も知恵をお持ちです。西中生の熱い心と闊達な行動力が活かせるようお助けください。中学生はダイヤモンドの原石です。その鋭敏で正義感、弱い者への共感、純粋な友情は年老いた人間にも温かい風を運んでくれます。中学生のいる生活を楽しんでください」

また、和久先生からは、平成２９年２月の新入生保護者説明会の「思春期講座」後にもお手紙をいただいたことがあります。その時の新入生の保護者の皆さまの姿に感心されて、後日校長あてにお手紙を送ってこられました。

当時の和久先生の手紙から（抜粋）

「微動だにせず話を聞かれ、時間にはピッタリとそろっていらっしゃる保護者はなかなか無いですよ。この保護者に育てられている子どもたちは楽しみですね。受付をされている方もそれぞれに温かく素敵でした」

※受付をされていたのは当時のＰＴＡ執行部の皆様でした。

さらに、平成３０年２月に開催した新入生保護者説明会の「思春期講座」後にも同じくお手紙をいただきました。以下抜粋で内容を紹介します。

「いつお目にかかっても、西中の保護者の皆さまは素敵です。とても真摯な態度で聞いてくださいました。それに応えるお話ができたか反省いたしました」

和久先生からは、毎年のように講演会で西中学校の保護者の皆さまの話を聞く態度が素晴らしいというお手紙をいただいておりました。ありがたいことです。

このお手紙からわかるように、本校はこのような素晴らしい保護者の皆さまのご支援があってこそ、良き伝統を守り続けていられるのだと思います。今後とも、ご協力の程よろしくお願いします。



ホームページを
日々更新中！！